



県政世論調査

平成 20 年度

概要報告書



静岡県

目 次

ページ

調査の概要	1	
生活についての意識	2	暮らし向き
	3	日常生活の悩みや不安
	4	静岡県の住みよさ
県の仕事に対する関心	5	県政への関心度
	6	県への意見や要望、不満
	7	県への意見や要望を反映させる手段
	8	広報媒体の浸透度
	10	県の主要イベント周知度
	11	県に望む施策
ユニバーサルデザインに関する意識	12	ユニバーサルデザインの認知度と推進
臓器の移植に関する意識	13	臓器提供意思表示カード等の所持率
都市的地域における農業、農地に関する意識	14	都市的地域における水田や畑の必要性
労使紛争処理制度に関する意識	15	労使紛争処理制度の認知度
交通事故及び犯罪被害に遭う不安度に関する意識	16	交通事故に遭う不安度
	16	犯罪被害に遭う不安度と種類
	17	犯罪発生防止の点から見たあなたのまちの状況
制服警察官の活動、交番・駐在所に関する意識	18	交番・駐在所に強化してほしい活動
	18	警察官の巡回連絡への要望

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| (1) 生活についての意識 | (5) 都市的地域における農業、農地に関する意識 |
| (2) 県の仕事に対する関心 | (6) 労使紛争処理制度に関する意識 |
| (3) ユニバーサルデザインに関する意識 | (7) 交通事故及び犯罪被害に遭う不安度に関する意識 |
| (4) 臓器の移植に関する意識 | (8) 制服警察官の活動、交番・駐在所に関する意識 |

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成20年6月19日～7月6日
- 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率 (%)
東 部	1,016,583	663	501 (75.6)
中 部	994,845	653	499 (76.4)
西 部	1,063,216	684	478 (69.9)
全 県	3,074,644	2,000	1,478 (73.9)

この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,478を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に(M. A.)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

暮らし向き — 「苦しくなっている」という人は44%、50代では55%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。
Q1-1 お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由を、この中から3つまであげてください。(M.A.)

暮らし向き

●53%が「同じようなもの」と回答している。「苦しくなっている」は44%と、4割を超えている。

経年比較

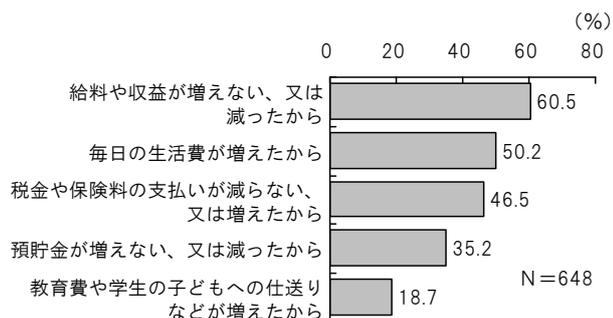
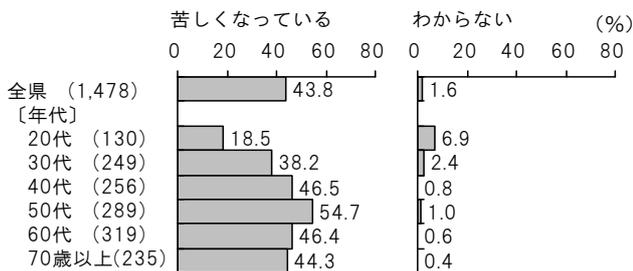
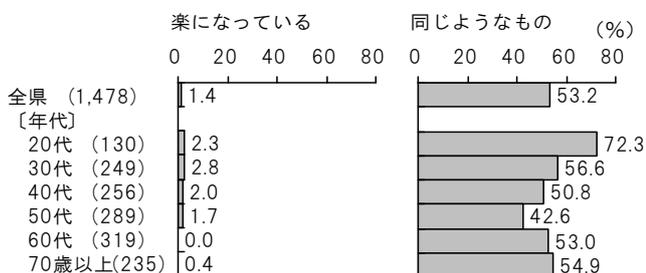
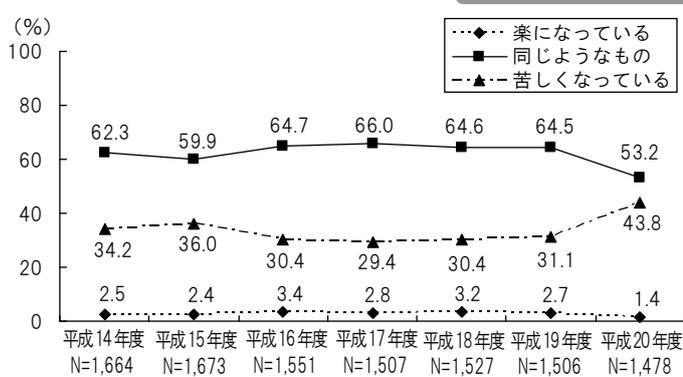
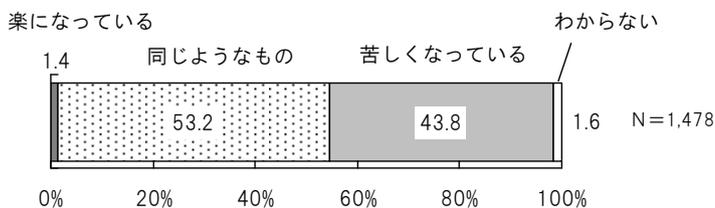
●「苦しくなっている」は、平成16年度から減少傾向であったが、平成18年度以降は増加傾向となり、本年度は前年度より12.7ポイント増加し、昭和55年の調査以来最も高くなっている。
 一方、「楽になっている」は、これまで3%前後で推移していたが、本年度は例年の半分にとどまった。

年代別

●「苦しくなっている」と回答している人は、20代は19%と低めであるが、40代以上で高い割合となっている。特に、50代では、55%の人が「苦しくなっている」と回答をしている。

Q1-1 苦しくなっている理由

●「給料や収益が増えない、又は減ったから」が61%で最も高く、以下、「毎日の生活費が増えたから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」の順となっている。(右図は上位5位)



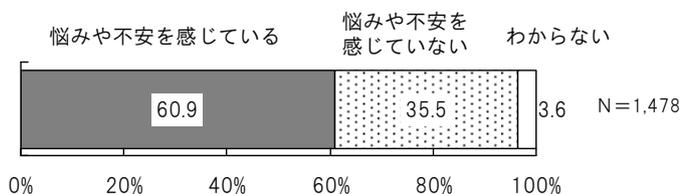
日常生活の悩みや不安 —— 「悩みや不安を感じている」人が61%

Q2 あなたは日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

Q2-1 悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

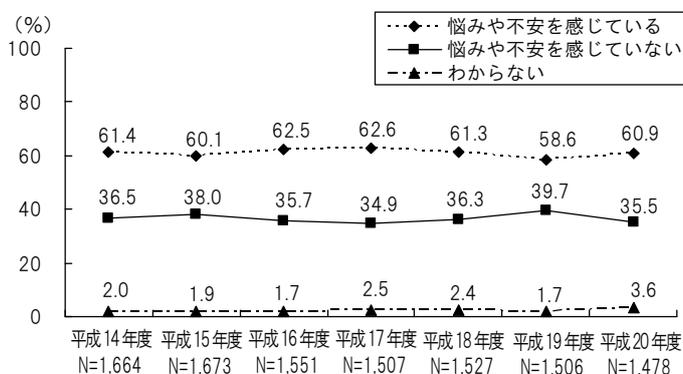
日常生活の悩みや不安

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は、約6割を占めている。



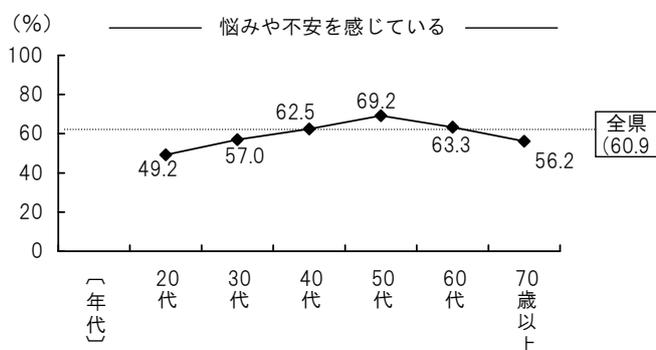
経年比較

- 「悩みや不安を感じている」人、「感じていない」人の割合は、平成14年度以降は、共にほぼ横ばいで推移している。本年度は、前年度と比較して「悩みや不安を感じている」人は2.3ポイントの増加、「感じていない」人は4.2ポイントの減少となっている。



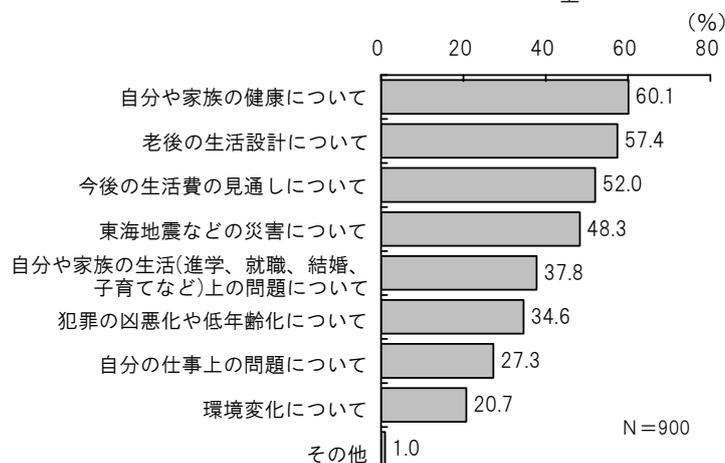
年代別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、50代をピークとして、40代から60代において高めとなっている。



Q2-1 悩みや不安の内容

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容についてたずねたところ、「自分や家族の健康について」が60%で最も高く、以下、「老後の生活設計について」、「今後の生活費の見通しについて」、「東海地震などの災害について」、「自分や家族の生活上の問題について」の順になっている。

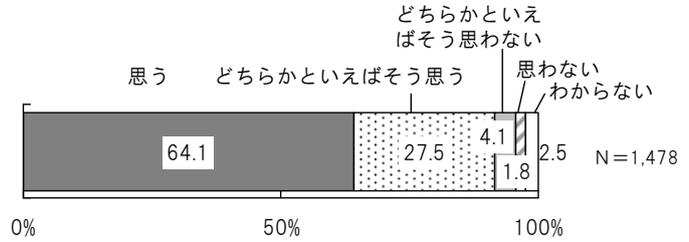


静岡県の住みよさ —— 「住みよいところだと思う」人が92%

Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。
Q3-1 あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由を、次の中から3つまであげてください。(M.A.)

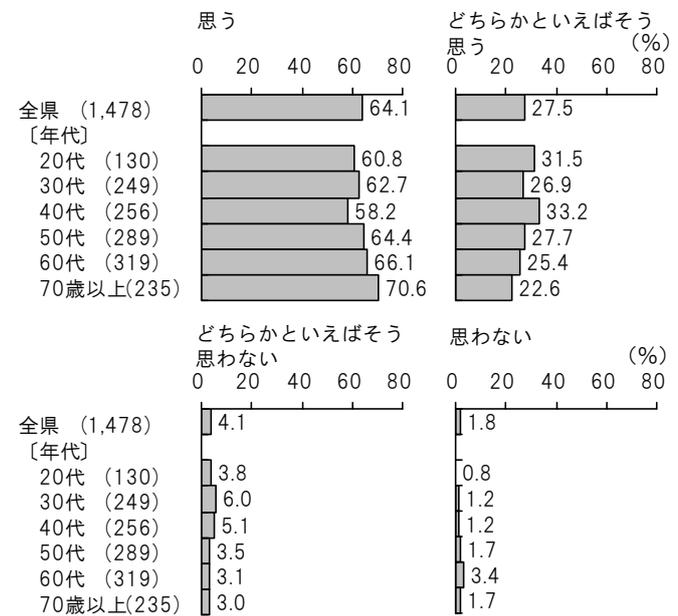
静岡県の住みよさ

- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて92%の人が静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



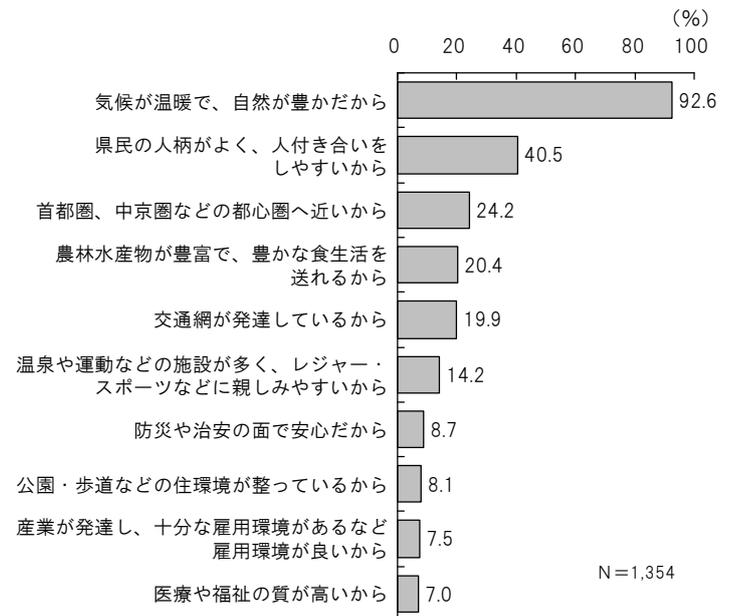
年 代 別

- 「思う」は、70歳以上で71%と最も高く、最も低い40代とは12.4ポイントの差がある。



Q3-1 住みよいところだと思う理由

- 静岡県は住みよいところだと「思う」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が93%で最も高く、以下、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「首都圏、中京圏などの都心圏へ近いから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」、「交通網が発達しているから」、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー・スポーツなどに親しみやすいから」、「防災や治安の面で安心だから」、「公園・歩道などの住環境が整っているから」、「産業が発達し、十分な雇用環境があるなど雇用環境が良いから」、「医療や福祉の質が高いから」の順になっている。(右図は上位10位)



県政への関心度 ———— 県政に「関心がある」人は56%

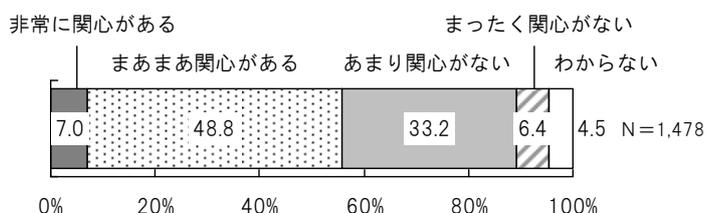
Q4 あなたは県の政治や行政にどの程度関心がありますか。この中ではどうでしょうか。

Q4-1 県政に関心がある理由をこの中から1つだけあげてください。

Q4-2 県政に関心がない理由をこの中から1つだけあげてください。

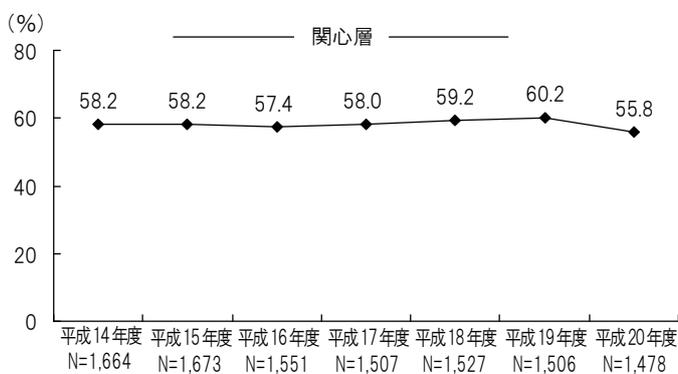
県政への関心度

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせて56%の人が県政に関心があると回答している。



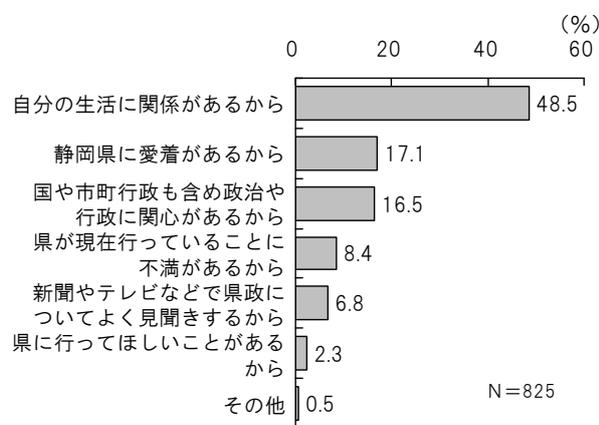
経年比較

- 県政に関心を持っている人の合計は、平成14年度以降60%前後で推移していたが、本年度は前年度よりも4.4ポイント減少し5割台半ばとなっている。



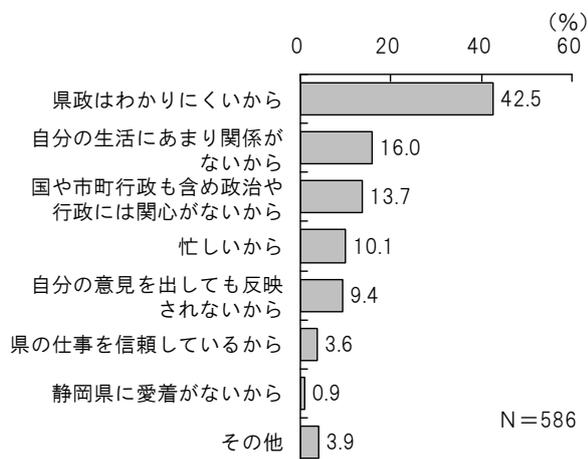
Q4-1 関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が49%で最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順となっている。



Q4-2 関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が43%と最も高い。以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」の順となっている。



県への意見や要望、不満

——意見や要望、不満が「ある」人は37%、そのうち県に伝えた人は12%

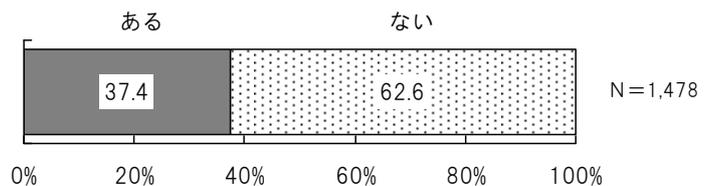
Q5 あなたはこの1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

Q5-1 それでは、そのことを県に伝えましたか。

Q5-2 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由をこの中から1つだけあげてください。

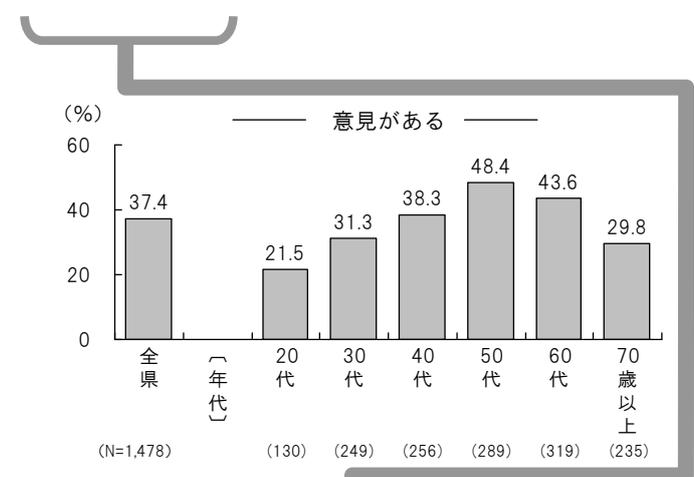
県への意見や要望、不満

●県の仕事について、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は、37%となっている。



年代別

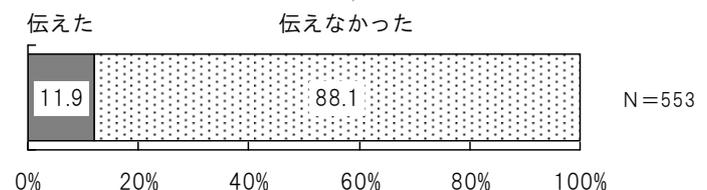
●意見や要望、不満が「ある」人の割合は、50代から60代の中高年代で高く、特に50代では約半数を占めている。



不満層 37%

Q5-1 伝達の有無

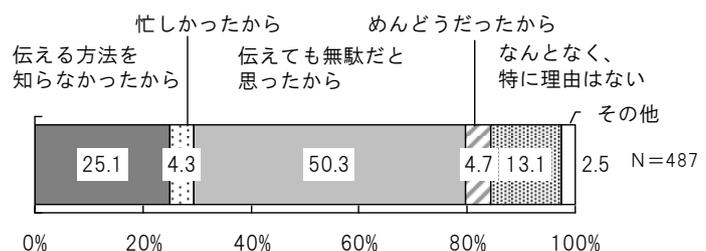
●意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は12%にとどまっている。



伝えなかった 88%

Q5-2 伝達しなかった理由

●県の仕事について意見や要望を持ったり、不満を感じたことが「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人にその理由を聞いたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が、50%で最も高くなっている。次いで「伝える方法を知らなかったから」が25%となっている。



県への意見や要望を反映させる手段

—— 「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も高い

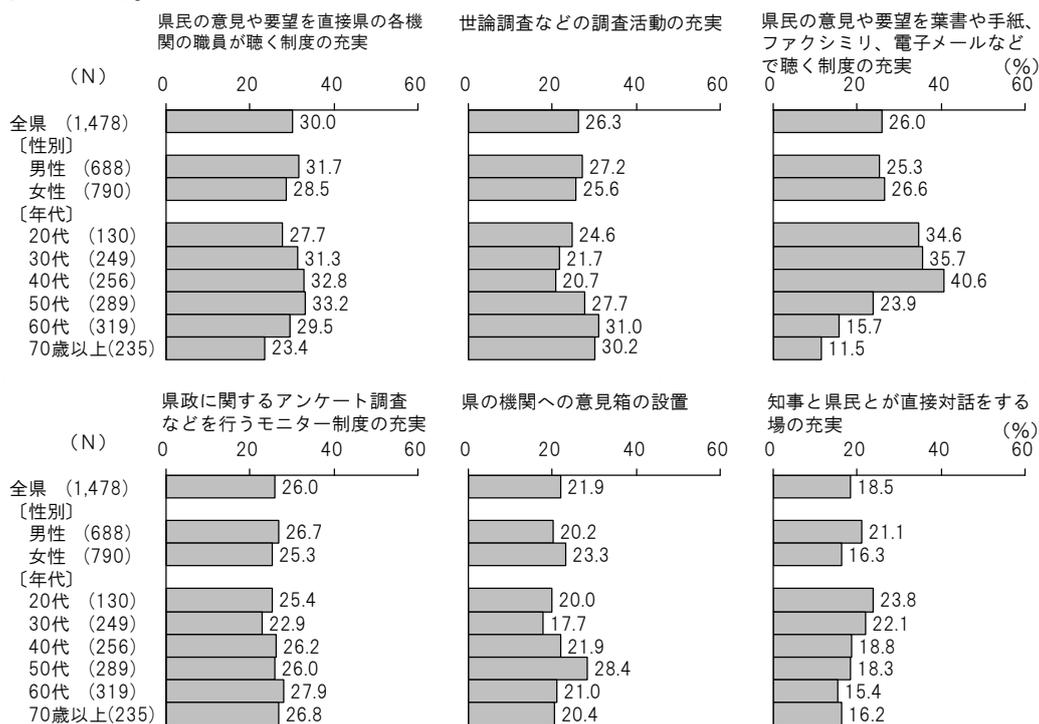
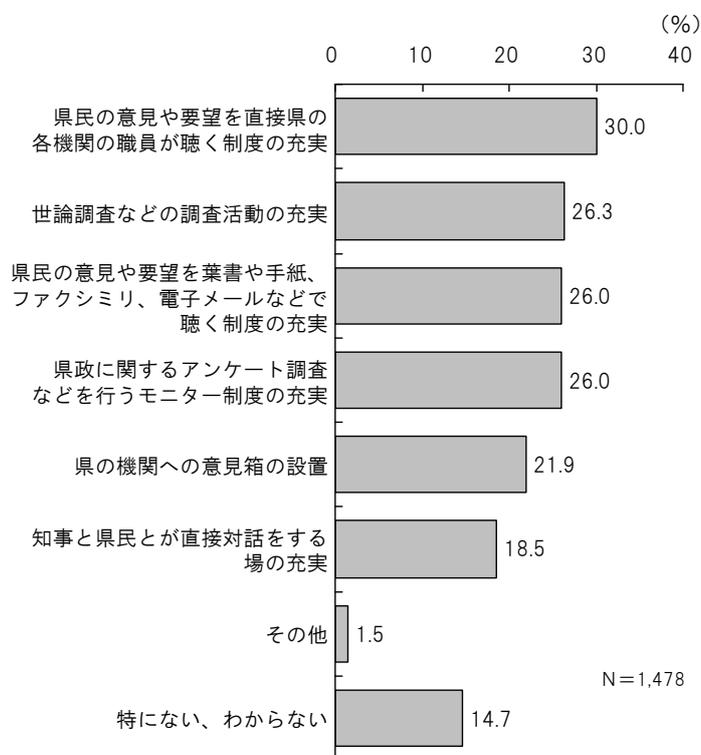
Q6 あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。(M.A.)

県への意見や要望を反映させる手段

● 「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も高く、以下、「世論調査などの調査活動の充実」、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「県政に関するアンケート調査などを行うモニター制度の充実」、「県の機関への意見箱の設置」の順となっている。

年 代 別

● 最も要望の高い「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」は、年代の差はあまり見られない。また3番目に要望の高い「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」は、若い年代が高く、40代の41%がピークとなっている。



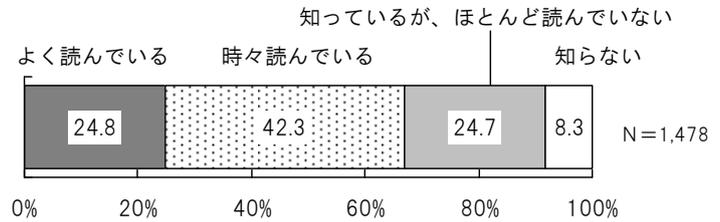
広報媒体の浸透度

—— 「県民だより」を読んでいる人は67%、「テレビコマーシャル」を見た人は53%

Q7 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて1つだけお答えください。

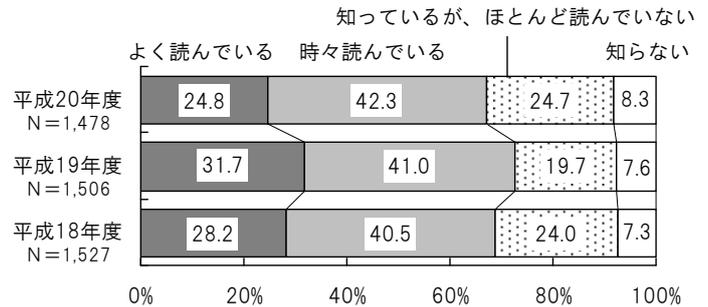
県民だより

- 「よく読んでいる」人が25%、「時々読んでいる」人が42%で、合わせると約7割が読んでいる。



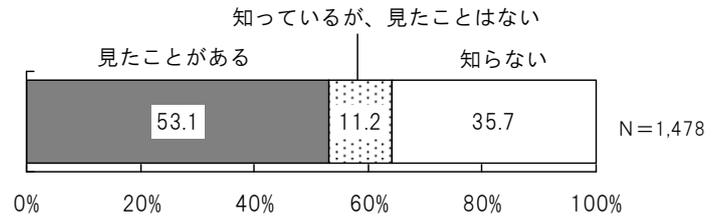
経年比較

- 本年度は、前年度と比べ「よく読んでいる」は25%と6.9%減少し、「知っているがほとんど読んでいない」が25%と5ポイント上回っている。



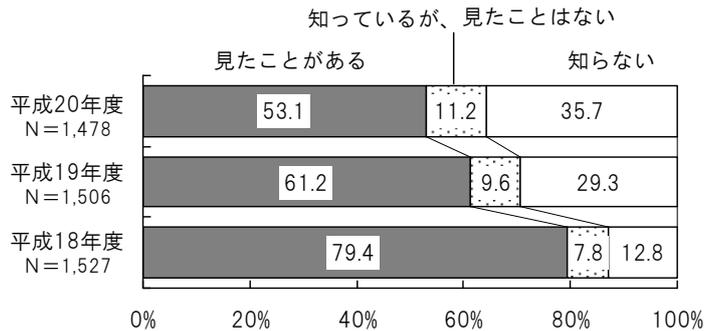
テレビコマーシャル

- 「見たことがある」が53%、「知らない」が36%で、「見たことがある」人が17ポイント上回っている。



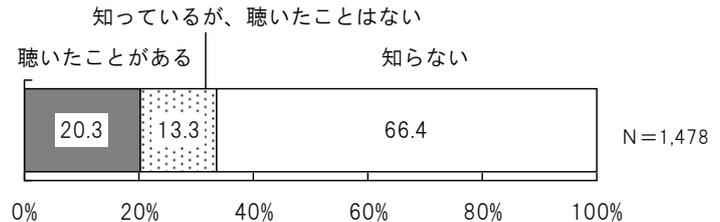
経年比較

- 「見たことがある」は平成18年度からは減少傾向にあり、本年度は53%と前年度よりも8.1ポイント下回っている。



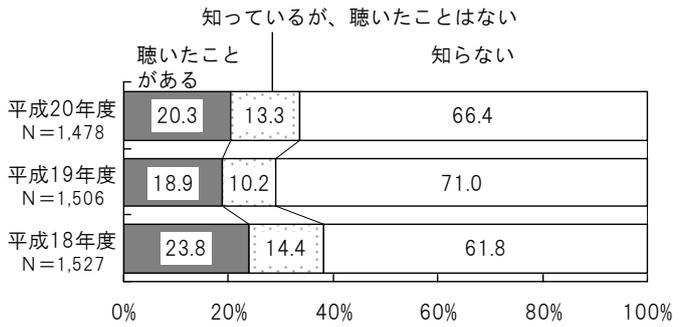
ラジオ広報番組

- 「聞いたことがある」は20%、一方、「知らない」は66%となっている。



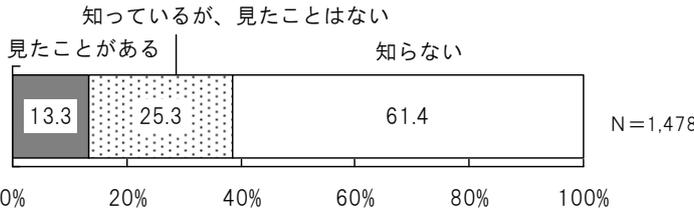
経年比較

●「聞いたことがある」割合は、増減が繰り返されている。本年度は20%と前年度よりも1.4ポイント上回っている。



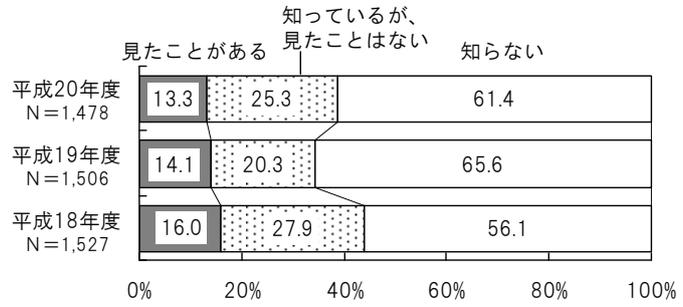
県のホームページ

●「見たことがある」が13%、「知らない」が61%となっている。



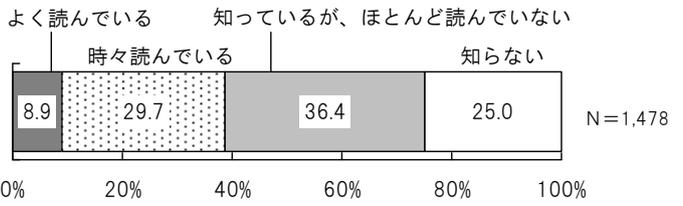
経年比較

●「見たことがある」割合は年々減少し、本年度では13%となっている。一方、「知らない」割合は平成19年度では66%に増加したが、本年度では61%と再び減少に転じている。



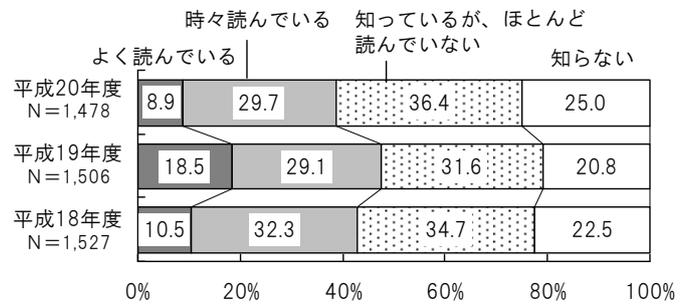
静岡県議会だより

●「よく読んでいる」人が9%、「時々読んでいる」人が30%で、合わせると、約4割の人が読んでいる。



経年比較

●「よく読んでいる」割合は、平成18年度までは10%前後で推移していたが、平成19年度では19%となっている。今回の調査では、再び減少に転じ、9%となっており、前年度と10ポイント近く差が見られる。一方、「知らない」割合は今回の調査が最も高く、25%となっている。



県の主要イベント周知度

—— 「第24回国民文化祭・しずおか2009」の周知度は26%

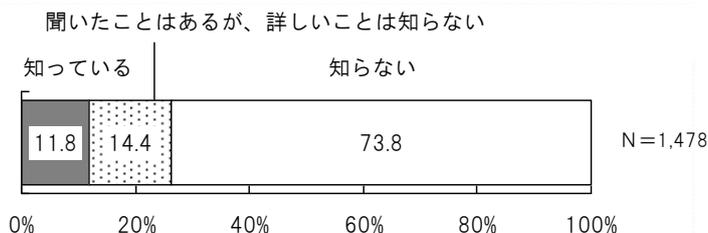
Q8

来年（平成21年）秋に、音楽・演劇・美術・文芸・舞踏・邦楽・民族芸能・生活文化など、皆さんが行っている各種の文化活動について、全国的な規模で発表、競演し、交流する、国民の文化の祭典「第24回国民文化祭・しずおか2009」が、静岡県で16日間にわたり開催されます。

あなたは、この大会をご存知ですか。

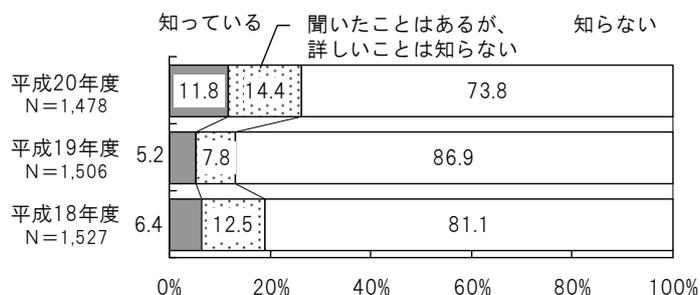
第24回国民文化祭・しずおか2009

- 「知っている」は12%で、「知らない」は74%となっている。



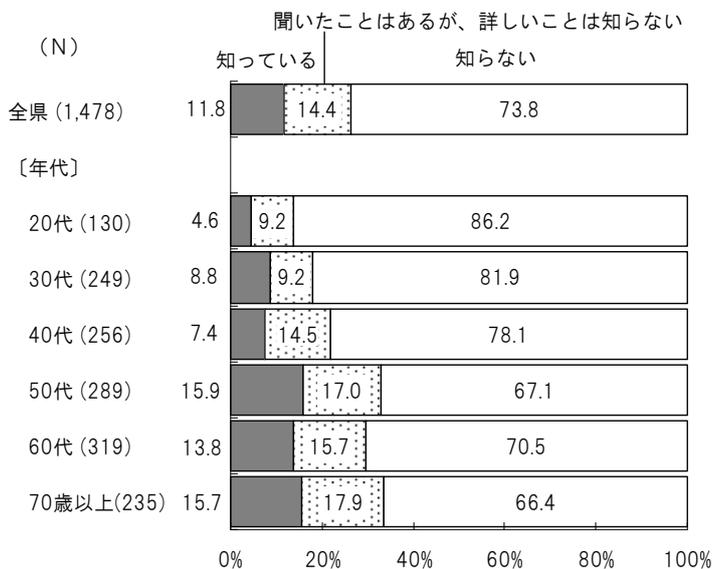
経年比較

- 「知っている」は、平成19年度までは1割未満であったが、今回の調査では12%と増加している。一方「知らない」は前年度よりも13.1ポイント減少し、74%となっている。



年代別

- 「知っている」割合は、50代で16%と最も高くなっている。以下、70歳以上、60代の順となっており、50代以上で高い割合となっている。



Q9 あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。(M.A.)

県に望む施策

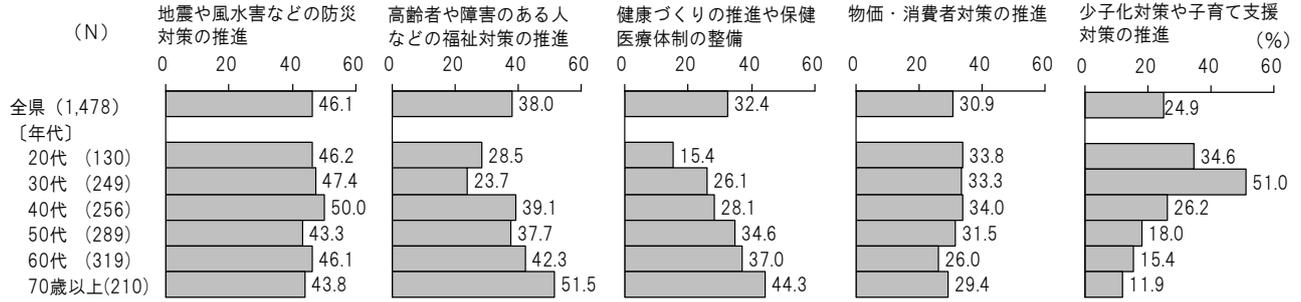
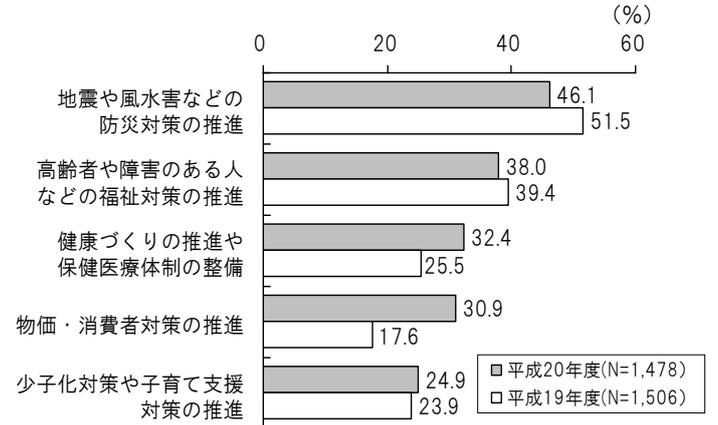
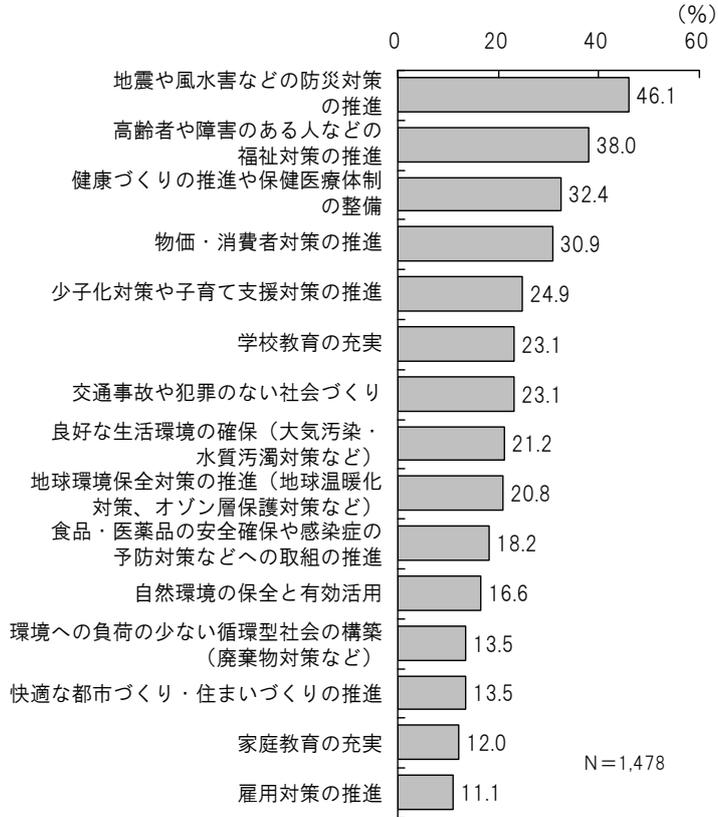
●「地震や風水害などの防災対策の推進」が46%で最も高くなっている。以下、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」、「物価・消費者対策の推進」、「少子化対策や子育て支援対策の推進」、の順となっている。(右図は上位15位)

経年比較

●「地震や風水害などの防災対策の推進」は前年度と同じく第1位であるが、前年度と比較して5.4ポイント減少している。
一方、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」が6.9ポイント増加し第5位から第3位に、「物価・消費者対策の推進」が13.3ポイント増加し第9位から第4位に上昇した。

年代別

●「少子化対策や子育て支援対策の推進」は、30代で51%と他の世代よりも高くなっている。また、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」では、おおむね年代が上がるほど割合が高くなっている。



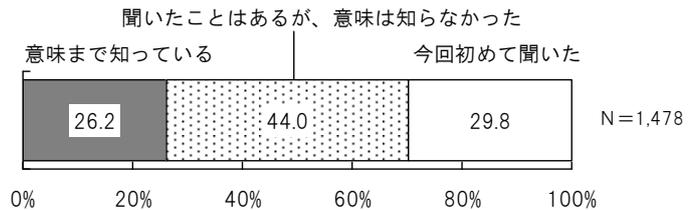
ユニバーサルデザインに関する意識

—— 「ユニバーサルデザイン」の認知度は70%

- Q10 あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。
- Q11 あなたの身の回りでは、歩道の段差解消や鉄道駅へのエレベーターの設置、誰もが乗り降りしやすい超低床ノンステップバスの導入など、誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思いますか。
- Q12 「ユニバーサルデザイン」を様々な分野にひろげていく上で、どのような点を優先して推進していくべきだと思いますか。この中から3つまであげてください。(M.A.)

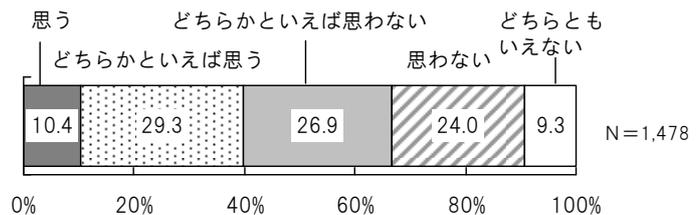
ユニバーサルデザインの認知度

● 「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が44%で最も高く、「意味まで知っている」は26%、「今回初めて聞いた」は30%となっている。認知度は70%であった。



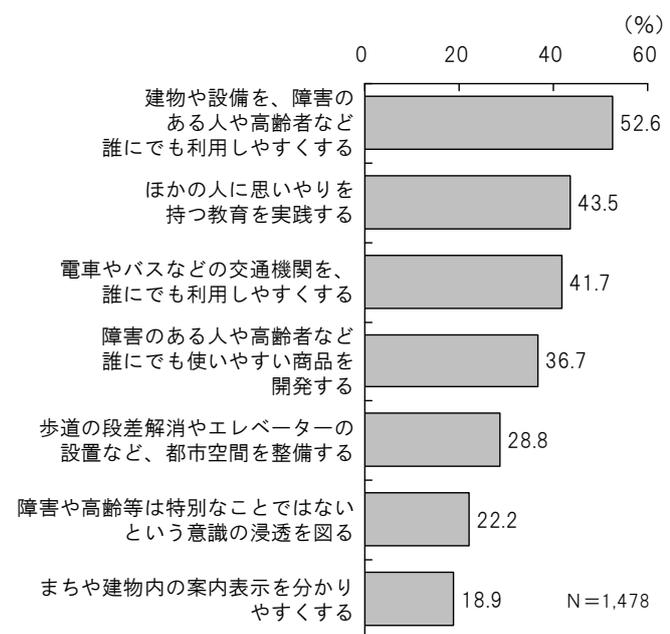
誰もが暮らしやすいまちづくりの推進度

● 「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせて40%の人が誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思うと回答している。一方、「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせると51%となっており、「思わない」という人が11.2ポイント上回っている。



ユニバーサルデザインをひろげていく上で推進すべき点

● 「ユニバーサルデザイン」をひろげていく上で優先して推進すべき点は、「建物や設備を、障害のある人や高齢者など誰にでも利用しやすくする」が53%で最も高く、以下、「ほかの人に思いやりを持つ教育を実践する」、「電車やバスなどの交通機関を、誰にでも利用しやすくする」、「障害のある人や高齢者など誰にでも使いやすい商品を開発する」、「歩道の段差解消やエレベーターの設置など、都市空間を整備する」が続いている。(右図は上位7位)



Q13

あなたは臓器提供意思表示カード等を持っていますか。

Q13-1

あなたは臓器提供意思表示カード等に記入をしていますか。

Q13-2

あなたが臓器提供意思表示カード等を持っていない理由はなぜですか。この中にあれば、いくつでもあげてください。(M.A.)

臓器提供意思表示カード等所持率

●臓器提供意思表示カード等を「持っていない」は92%で、「持っている」は8%と1割に満たなかった。

Q13-1 臓器提供意思表示カード等の記入の有無

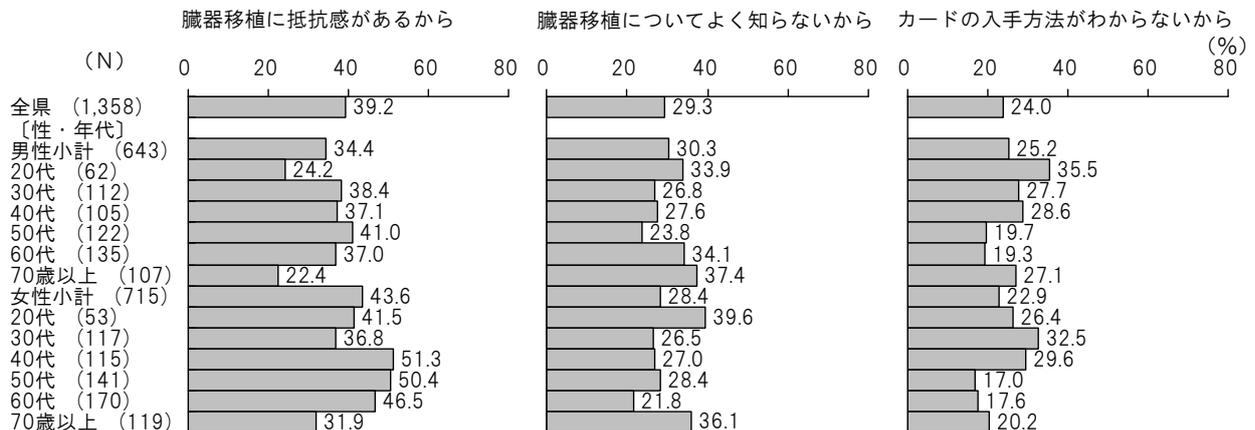
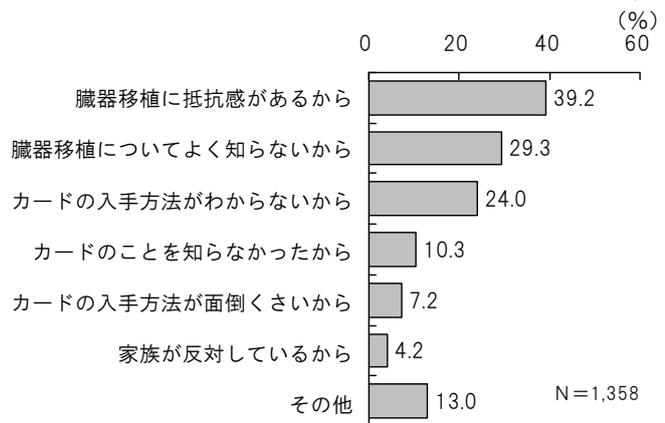
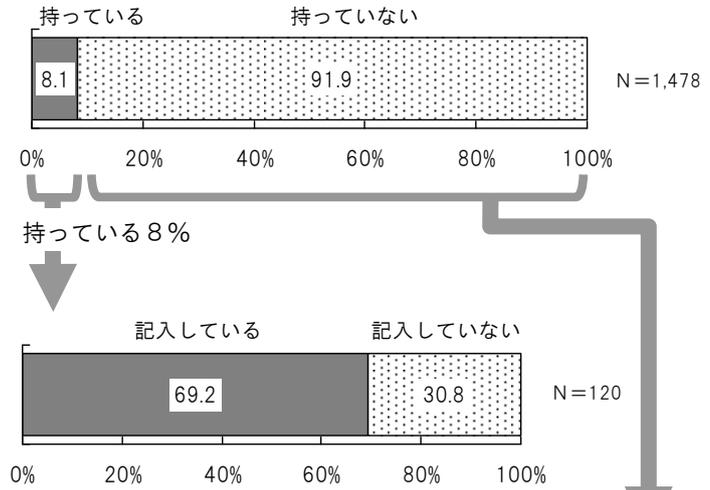
●臓器提供意思表示カード等を「持っている」人に記入についてたずねたところ、「記入している」が69%、「記入していない」が31%となっている。

Q13-2 臓器提供意思表示カード等を持っていない理由

●「臓器移植に抵抗感があるから」が39%で最も高く、以下「臓器移植についてよく知らないから」が29%、「カードの入手方法がわからないから」が24%と続いている。

性・年代別

●「臓器移植に抵抗感があるから」は、男性34%、女性44%で女性の方が高くなっている。特に女性40代で51%、女性50代で50%と高くなっている。



都市的地域における農業、農地に関する意識

——水田や畑を残す必要性有は92%、理由は「新鮮で安全な農産物が供給できるから」が71%
残す必要性無は8%、理由は「都市部は農業生産性が低いから」が35%

- Q14** あなたは農業地域だけでなく、都市やその周辺地域においても水田や畑を残す必要があると思いますか。
- Q14-1** あなたが、都市やその周辺地域の水田や畑を残したいと思うのはどのような理由からですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)
- Q14-2** あなたが、都市やその周辺の水田や畑を守るために、どんなことをしたいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)
- Q14-3** あなたが、都市やその周辺地域の水田や畑を残す必要がないと思うのはどのような理由からですか。この中から1つだけあげてください。

水田や畑を残す必要性の有無

- 「はい」が92%と9割を超え、「いいえ」は8%と1割に満たなかった。

Q14-1 水田や畑を残したい理由

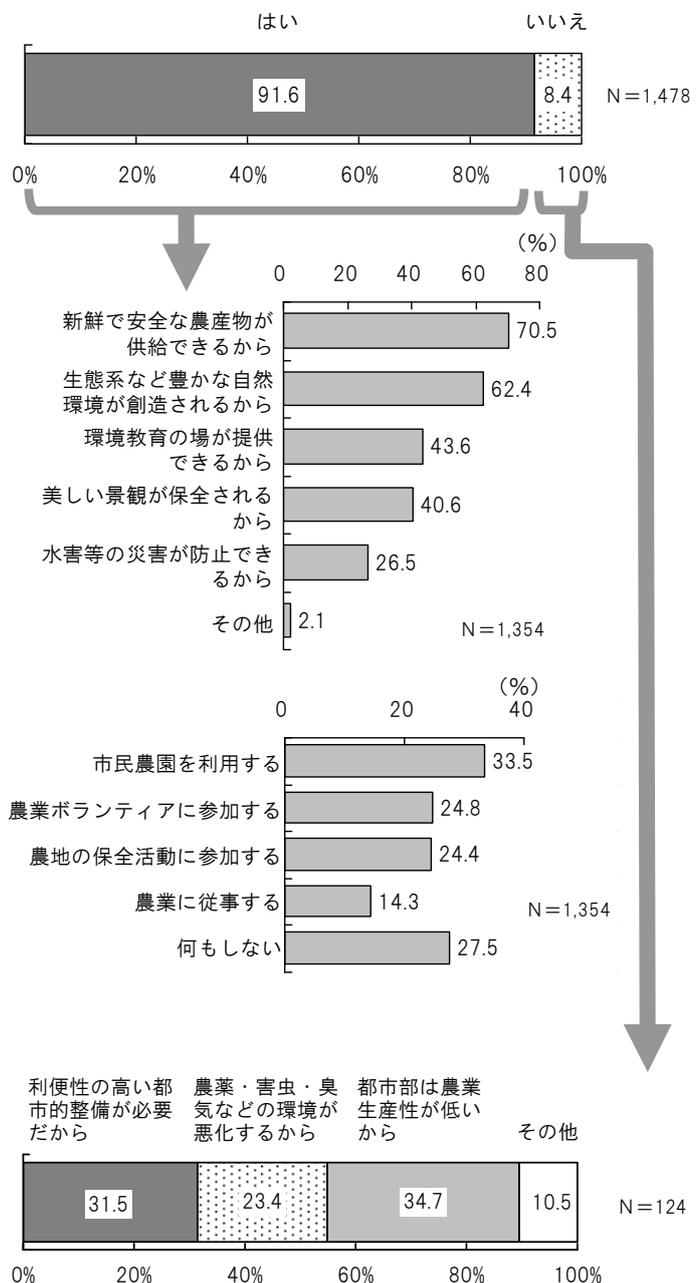
- 「新鮮で安全な農産物が供給できるから」が71%で最も高くなっており、以下「生態系など豊かな自然環境が創造されるから」が62%、「環境教育の場が提供できるから」が44%と続いている。

Q14-2 水田や畑を守るために実施したいこと

- 「市民農園を利用する」が34%で最も高く、以下「農業ボランティアに参加する」が25%、「農地の保全活動に参加する」が24%と続いている。

Q14-3 水田や畑を残す必要がないと思う理由

- 「都市部は農業生産性が低いから」が35%で最も高く、以下「利便性の高い都市的整備が必要だから」が32%、「農薬・害虫・臭気などの環境が悪化するから」が23%となっている。



労使紛争処理制度に関する意識

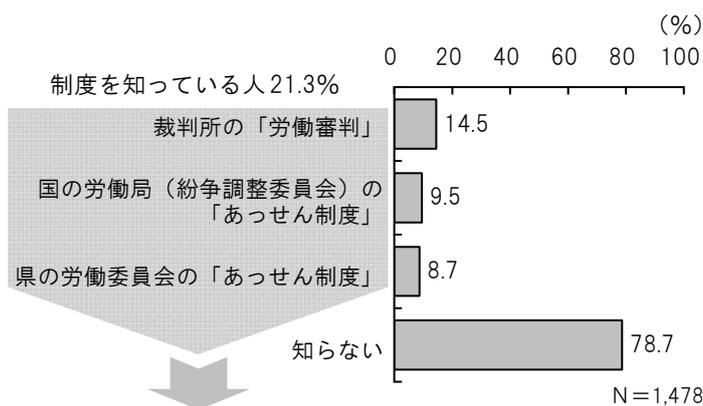
——制度を「知っている」は21%

県の労働委員会の「あっせん制度」を「知っている」は9%

- Q15** 個々の労働者と使用者との紛争の解決を支援する制度として次のようなものがありますが、あなたはご存知ですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)
- Q15-1** あなたはその制度を何によってお知りになりましたか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)
- Q16** 労働者と使用者との間のトラブルの解決について公的機関の支援（手助け）を求める時、あなたが重視するものをこの中から2つまであげてください。(M.A.)

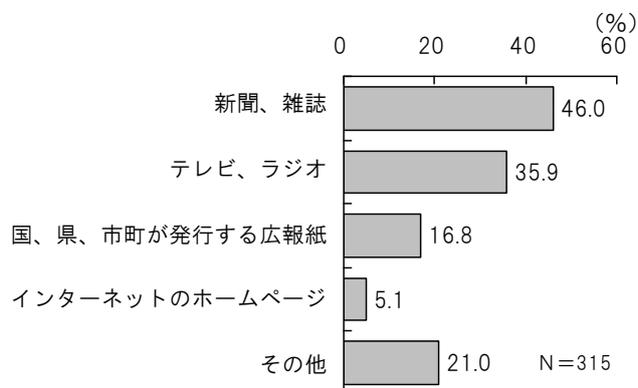
労使紛争解決を支援する制度の認知度

- 「知っている」は21%となっており、知っている人の中で、「県の労働委員会の『あっせん制度』」を「知っている」は9%となっている。



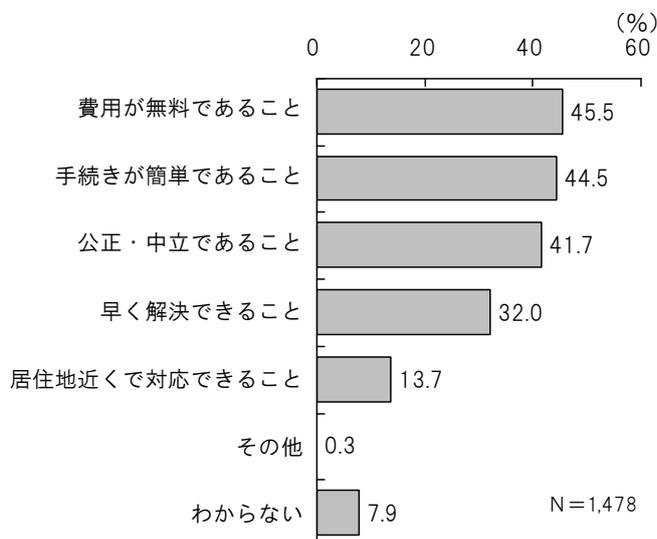
Q15-1 制度をどのように知ったか

- 「新聞、雑誌」が46%と最も高く、以下「テレビ、ラジオ」が36%、「国、県、市町が発行する広報紙」が17%となっている。



労使間のトラブル解決で支援を求める際重視するもの

- 公的機関の支援を求める際に重視するものは、「費用が無料であること」が46%と最も高く、以下「手続きが簡単であること」が45%、「公正・中立であること」が42%と続いている。



交通事故及び犯罪被害に遭う不安度に関する意識

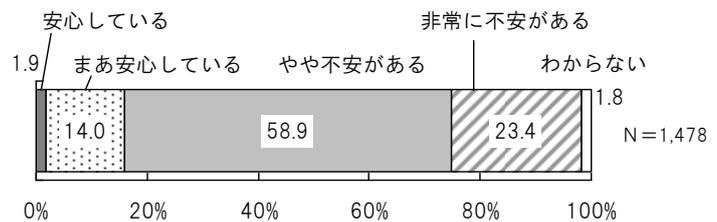
——県内で交通事故に遭う不安を感じている人は82%

県内で犯罪に遭う不安を感じている人は73%

- Q17 あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。
- Q18 あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。
- Q18-1 不安を感じている犯罪を、この中からいくつでもあげてください。(M.A.)
- Q19 あなたは、犯罪発生の防止の点から、あなたのまちをどう思いますか。次にあげる項目についてそれぞれ1つずつお選びください。

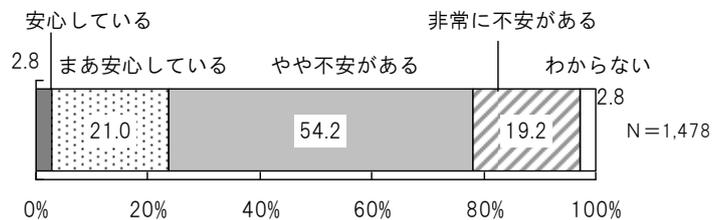
交通事故に遭う不安度

●県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じている程度について、「安心している」が2%、「まあ安心している」が14%で、合わせた“安心層”は16%となっている。一方、「やや不安がある」が59%、「非常に不安がある」が23%となっており、県内で交通事故に遭うのではないかと感じている“不安層”は82%となっている。



犯罪被害に遭う不安度

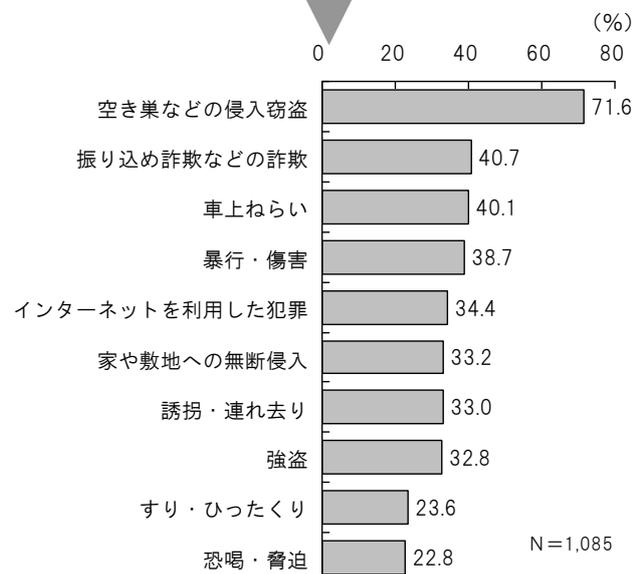
●県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じている程度について、「安心している」が3%、「まあ安心している」が21%で、合わせた“安心層”は24%となっている。一方、「やや不安がある」が54%、「非常に不安がある」が19%となっており、県内で犯罪被害に遭うのではないかと感じている“不安層”は73%となっている。



不安層 73%

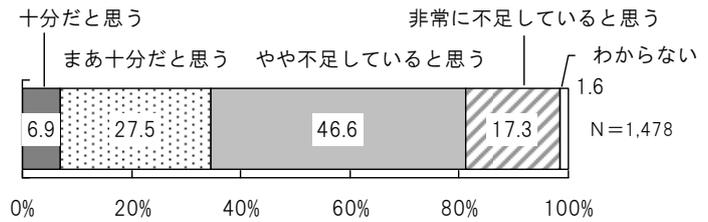
Q18-1 不安を感じている犯罪

●“不安層”に対して、不安を感じている犯罪についてたずねたところ、「空き巣などの侵入窃盗」が72%で第1位、以下、「振り込め詐欺などの詐欺」「車上ねらい」、「暴行・傷害」、「インターネットを利用した犯罪」の順になっている。(右図は上位10位)



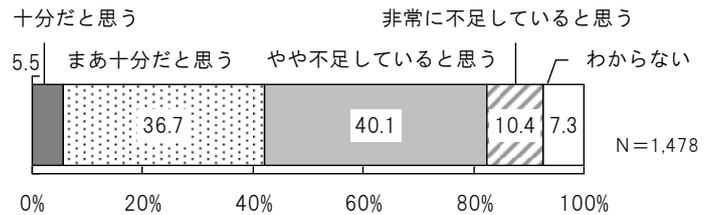
防犯灯や街灯の設置状況について

●全体についてみると、「十分だと思う」が7%、「まあ十分だと思う」が28%で、“十分層”全体では34%となっている。一方、「やや不足していると思う」が47%、「非常に不足していると思う」が17%で、“不十分層”全体は64%となっている。



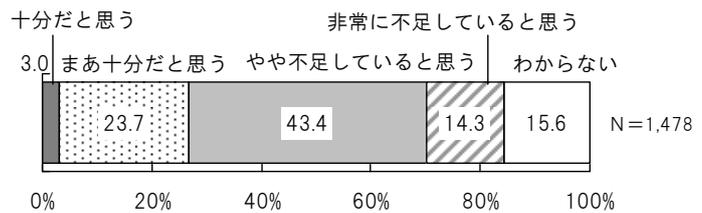
見通しのよくない公園や道路脇の樹木・植栽の管理

●全体についてみると、「十分だと思う」が6%、「まあ十分だと思う」が37%で、“十分層”全体では42%となっている。一方、「やや不足していると思う」が40%、「非常に不足していると思う」が10%で、“不十分層”全体は51%となっている。



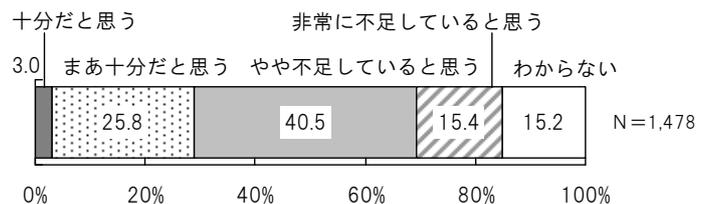
個人の住宅や商店の建物の防犯管理体制

●全体についてみると、「十分だと思う」が3%、「まあ十分だと思う」が24%で、“十分層”全体では27%となっている。一方、「やや不足していると思う」が43%、「非常に不足していると思う」が14%で、“不十分層”全体は58%となっている。



地域住民の自主的防犯活動

●全体についてみると、「十分だと思う」が3%、「まあ十分だと思う」が26%で、“十分層”全体では29%となっている。一方、「やや不足していると思う」が41%、「非常に不足していると思う」が15%で、“不十分層”全体は56%となっている。



制服警察官の活動、交番・駐在所に関する意識

——警察官に強化してほしい活動は「パトロール」が85%で第1位

要望は、「地域で発生している犯罪、交通事故などの情報を知らせること」が60%

Q20

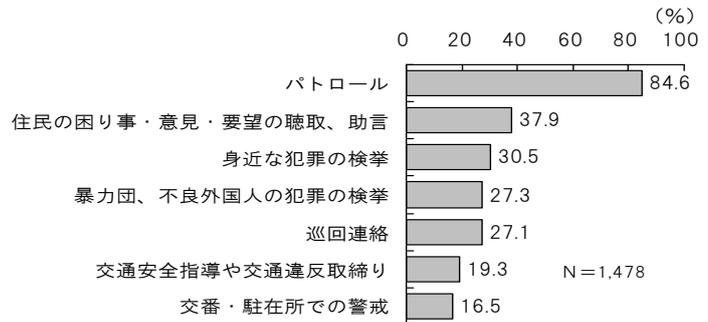
あなたは今後、交番・駐在所の警察官にどのような活動を特に強化してほしいと思いますか。この中から3つまであげてください。(M.A.)

Q21

あなたは、警察官が家庭や事業所を訪問(巡回連絡)した際に、どのようなことを要望しますか。この中から2つまであげてください。(M.A.)

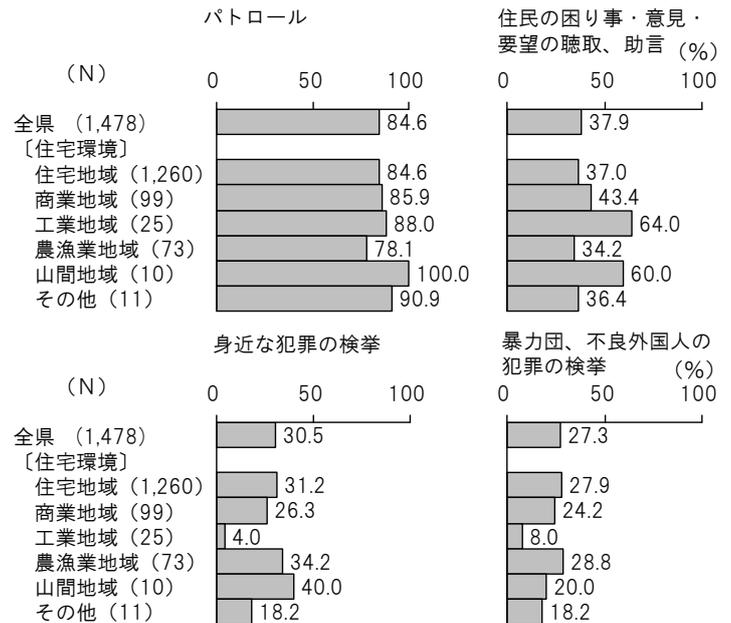
警察官に強化してほしい活動

- 「パトロール」が85%で最も高く、以下、「住民の困り事・意見・要望の聴取、助言」、「身近な犯罪の検挙」、「暴力団、不良外国人の犯罪の検挙」、「巡回連絡」と続いている。(右図は上位7位)



住宅環境別

- 「パトロール」は、農漁業地域で78%と、全県を6.5ポイント下回っている。山間地域では、すべての人(10人)が回答している。「住民の困り事・意見・要望の聴取、助言」は、工業地域が64%、山間地域が60%と高くなっている。「身近な犯罪の検挙」は、山間地域で40%と高くなっている。



警察官が巡回連絡した際に要望すること

- 「地域で発生している犯罪、交通事故などの情報を知らせること」が60%と最も高くなっており、以下、「防犯上、気をつけるべき事項などを知らせること」が52%、「地域で治安上、不安を感じることに関する相談を聞くこと」が41%と続いている。

